

運転者 総合的理解へ

弘大×本田技研工業 共同講座開設

岩木健診ビッグデータとモビリティ技術

移動と健康 融合研究

弘前大学と本田技研工業(本社東京都)は、人々の健康と安全を継続的に支える移動サービスの実現を目指す共同研究講座「インテリジェント・モビリティ&ヘルス研究講座」を6月1日付で開設し、8月31日に同大医学部で開設式を行った。同大が中心となって取り組む大規模な住民合同健

診「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目かつ22年にわたる健康ビッグデータと、同社のモビリティ(移動手段)技術を融合させ、運転者の健康状態を総合的に理解、予測、支援するための基盤技術の研究開発に取り組む。

(稲葉智絵)

共同研究講座の看板を手にする福田学長(左から2人目)と今井執行役(同3人目)ら



同社は創業者・本田宗一郎の「自らの技術で人の役に立ちたい」という強い思いを原点に、二輪・四輪車、パワープロダクト(汎用製品)、航空機など幅広い事業を展開し、独創的な技術やアイデアを通じて自由な

移動の喜びと日々の暮らしを豊かにする製品やサービスを提供。2050年までの長期目標として「環境負荷ゼロ」「交通事故死者ゼロ」の達成を掲げ、安全を支援する先進技術、データ活用技術の研究開発を進めている。

共同研究講座では、同大の健康ビッグデータや予防医療、データ解析、同社の車両運転やモビリティに関する技術、知見を融合し、①移動と健康、幸福感の関係を捉える「Wellbeing(心身と社会的に健やかで幸せな状態)行動研究」②健康状態の変化を早期に発見する「将来リスク評価研究」③運転操作から身体機能の変化を捉える

「日常運転ロコモ(運動器症候群)度推定研究」に取り組む。岩木健診には昨年度から参画。今年度はハンドル操作課題を実施し、運転者の健康状態を調査・測定した。開設式では福田眞作学長が「超高齢化社会を迎え、認知症など検討すべき運転課題はたくさんある。これを契機にさまざまなテーマを見つめ、研究成果につなげてもらいたい」、同大大学院医学研究科の石橋恭之研究科長は小型ビジネスジェット機「ホンダジェット」の開発責任者を務めた弘前市出身の藤野道格さんに触れ「本田技研工業と共同研究講座を開設できることを光栄に思う。本講座がウェルビーイング研究を前進させる大きな力となる」と期待を示した。

同社の今井隆志執行役(四輪事業本部事業戦略担当)は岩木健診のビッグデータを活用できることに「世界的に見ても極めてまれなこと」と強調。「健康を多面的に理解するデータと弘前大の高い知見により、先進的な事故防止・安全技術に加え、運転者らの健康を融合させた次世代技術の開発、研究を進めていく。移動することでより健康に、より前向きになる社会を目指す」と意欲を示した。

弘前大では現在、一つの共創研究所、24の共同研究講座が開設されている。